昭和大学江東豊洲病院だより

2014年２号　通算２号　　2014 年 6月

かさま　つよし

副院長　笠間　毅

昭和大学江東豊洲病院が開院してから2か月が経ち、院内の各部署も土・日曜日、祝祭日の通常診療業務にも大きな支障もなく次第に慣れてきております。第2号の病院だよりでは江東豊洲病院の内科系疾患の診療体制について説明させていただきます。

当院の内科系診療科は消化器センター（消化器内科）、循環器センター（循環器内科）、脳血管センター（神経内科）および内科系診療センター（内科）により構成されています。さらに内科系診療センターの内科は呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科および腫瘍内科の5つの専門領域からなり、それぞれの専門医が外来・入院を担当しています。また受診する診療科のはっきりしないような患者さんも内科系診療センターの内科が受け入れており、診断から治療、あるいは他の専門診療科への紹介などを行っています。このように江東豊洲病院では血液疾患以外の内科系疾患のほとんどすべてに対応が可能となりました。

当院は急性期疾患に対応する病院として機能することを目指しています。さらに高度な先進的医療を提供することも江東豊洲病院の大きな使命であります。このような病院の機能を効率的に発揮するためには、江東区および近隣区のクリニック・診療所・病院などとの医療連携が重要と考えております。また希少疾患あるいは特殊な難治性疾患などに対しても診断から急性期治療を行い、さらに外来でのコントロールが可能となれば近隣の医療機関と共同での患者さんの治療・管理などができるような体制の構築も今後進めていきたいと思います。

紹介患者さんも次第に多くなってきております。“すべては患者さんのために”、を目標に近隣の先生方のご理解とご協力をいただきながら、内科系診療科のみならず病院が一丸となりチーム医療を実践していければ、昭和大学の建学の精神である“至誠一貫”を実践できるものと思います。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

昭和大学江東豊洲病院

第２号のトピックス

- 副院長挨拶
- 診療科紹介
  －循環器センター
- 部門紹介
  －薬局－

やまぐち　ひろき

◆診療科紹介　循環器センター　循環器センター長教授　山口　裕己

丹野郁教授率いる循環器内科と私の循環器外科が一体となり、後天性心疾患を有するすべての方に極めて専門性の高い治療を提供します。常に内科医と外科医がお互いの最先端の結果と知識を提供しこれらを共有しながらも、互いの独立性を尊重しつつ、患者さんにとって最善の治療を提供します。最新のガイドラインに示されているエビデンスを熟知しこれに敬意を払いながらも、目の前におられる患者さんの病態を素直に受け止め常により優れた治療はないかと模索する科学の目を持ち続けます。

私は2004年8月にそれまでスタッフサージャンとして働いていたニュージーランド国オークランドシティ病院（前グリーンレーン病院）から日本に帰国し、千葉県松戸市にある新東京病院に心臓血管外科部長として赴任いたしました。以来10年の間に3500例あまりの開心術を行いました。

この度、縁あって昭和大学江東豊洲病院　循環器センター長　循環器外科診療責任者を拝命し、新東京病院在籍中に一緒に仕事をしていたスタッフと共に4月1日着任いたしました。大学人としての最大の使命は優れた医療人・臨床家を育成することにあります。優れた技量と遺伝子を引き継ぐ次世代の心臓血管外科医を育て世の中に送りだすことこそが私が昭和大学に来た最大の目的です。

心臓血管外科手術と聞くととても危険な手術という印象をもたれておられる方も多いかと思われますが、我々は前任地で2013年度に418例の緊急症例を含む心大血管手術を行い、この418例において早期死亡率0.47%という極めて優れた成績を達成しました。昭和大学江東豊洲病院においてもこれを上回る成績が達成できるチームを作っていきます。優れた早期成績と共に卓越した長期成績を獲得するため、冠動脈バイパス術においては長期の開存性に優れた動脈グラフトを使用します。弁膜症治療においては自己弁温存手術を基本とした術後長期にわたる抗凝固薬（ワーファリン）服用の不要な手術を行います。術後の心房細動に関連した心・脳合併症を回避するため、メイズ手術を除外基準なく行います。動脈瘤治療においても術後に再発、追加治療が最小限になるよう、カテーテル的治療と人工血管置換術を自在に使い分けていきます。手術を受けられた患者さんが術後長期にわたって症状なく活動的な社会生活に復帰できるような心臓大血管手術を提供するべくチーム一丸となって全力を尽くします。

右の写真は平成26年4月14日に施行された昭和大学江東豊洲病院における開心術第一例目の手術風景
（消化器センター長 井上教授が撮影してくださいました。）

左）山口（オペレーター）　　右）門脇

たんの　　かおる

循環器センター　循環器内科教授　丹野　郁

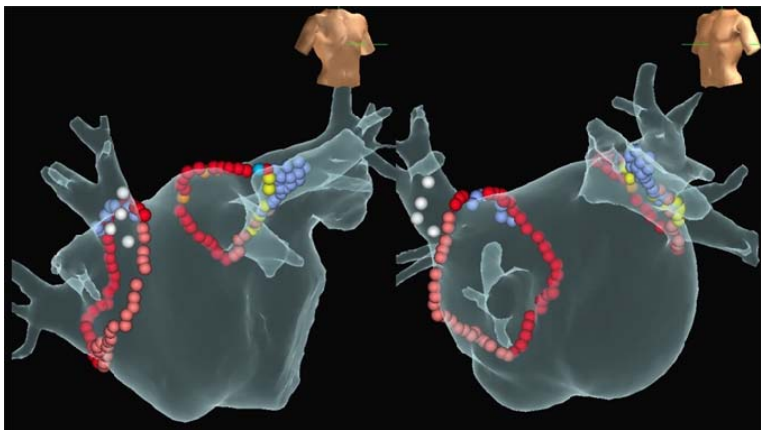
循環器センター　循環器内科では、不整脈・虚血性心疾患・心筋症・弁膜症・心不全・大動脈疾患・肺動脈疾患・末梢動脈疾患・高血圧・失神など循環器疾患全般を対象とします。

「24時間対応の急性期心臓血管カテーテル治療」

急性期治療では積極的に心臓カテーテル検査を行います。急性冠症候群では閉塞血管の早期再開通がもっとも重要です。当院では心臓カテーテル検査室が2室あり、24時間緊急心臓カテーテルが行えるシステムを整えています。最新のフィリップス社製の心臓カテーテルシステムと84インチの大画面で冠動脈の血管内治療を行います。また、冠動脈CT検査や負荷タリウム検査により、虚血性心疾患の早期発見も可能です。

「最新の３Ｄ－Mapping Systemを使った心房細動焼灼術」

頻脈性不整脈・期外収縮・心房細動は、カテーテルアブレーションによる根治療法を行っており、治療後は通院・内服の必要がなくなります。アブレーションシステムは、最新のCARTO3-Version3とNaVX-Velocityを装備し、様々な不整脈に対応が可能です。



循環器内科スタッフ　右から丹野、櫻井 、池田、小原、小川、佐藤

また当センターでは、侵襲的治療だけではなく、心臓超音波検査、運動負荷試験、ホルター心電図検査等の種々な循環器検査を取り揃えております。多様な循環器疾患に対応すべく、循環器医はもとより、生理検査技師、臨床工学士、放射線技師、看護師等とチームを組みながら、患者さんの循環器疾患の克服を支援します。

わたなべ　とおる

◆部門紹介　薬　局　薬局長　渡邊　徹

昭和大学江東豊洲病院が、急性期病院として旧豊洲病院から生まれ変わり開院いたしました。それに併せて薬局の役割も生まれ変わり、様々な場面で交わる事が多くなっています。

外来では「患者サポートセンター」を中心として外来患者さんへの服薬支援、「病棟」においては患者さんが正しく薬剤を使用できるよう、服薬指導と情報提供を行っています。

また、感染対策チーム・栄養サポートチームや医療安全などの「チーム医療」の一員としても薬剤師の職能を発揮しています。近年の新規医療用医薬品は毒性が強い反面、適切に使用することで絶大な効果も持ち合わせております。薬局では、薬物療法を受ける患者さんの有効性と安全性を確保するために、医薬品の適正使用に繋がるよう業務に努めています。

薬剤師の具体的な役割業務として三つあります。「患者サポートセンター」における検査前説明では中止すべき薬剤の確認説明を行い安全に検査が行えるよう薬剤の観点からサポートをしております。「入院サポート業務」として持参薬剤の確認を行っており、入院後の安全な薬剤使用に繋げています。

「病棟」ではハイリスク薬剤を始め、使用されている薬剤の適正化に日々、努めています。患者さんが安全に治療を行える様、患者中心の医療をモットーに他のメディカルスタッフと協力し業務を構築しています。

第三に院内における「チーム医療」として他の専門スタッフと協働して、医療安全、感染管理、栄養サポートなど各々チームが機能できる様に日々努力しています。

薬局は当院の理念（①まごころの医療、②安全・安心の医療、③地域と連携する医療、④医療人の育成）を実現化させるためチーム医療の実践、安全・安心な医療の最優先、地域連携への充実に貢献できるようスタッフ一同邁進して参ります。どうぞよろしくお願いします。

くわはら　くるみ

編集後記　薬局　桒原　久瑠美

昭和大学江東豊洲病院は開院して早くも２ヶ月が経ち、季節も初夏のやわらかな日ざしが若葉に降りそそぐ頃となりました。江東豊洲病院の運河側の窓からは東京タワーやお台場の観覧車を背景に季節を感じることができます。とても良いリフレッシュになりますので、皆さんも天気が良い日は運河沿いをお散歩してみてはいかがでしょうか。

昭和大学
SHOWA UNIVERSITY

昭和大学江東豊洲病院　http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/
〒135-8577 東京都江東区豊洲5－1－38
TEL03－6204－6000（代表）
発行責任者：新井一成　編集責任者：長谷川真

Showa University KotoToyosu Hospital